

第2章 現状

1. 鉄道の現況

(1) 新幹線の建設状況及び並行在来線の検討状況

北陸新幹線長野・富山間は、平成10年3月に長野・上越間、平成13年5月に上越・富山間が着工され、新潟県内の全区間で工事が進められている。完成時期については「平成13年から12年強」後の平成25年度頃とされており、10年後には上越市内を新幹線が運行することとなる。

しかし、北陸新幹線長野・富山間の開業時に信越本線長野・直江津間及び北陸本線直江津・富山間がJRから経営分離され、県及び沿線市町村が存続を図ることとなっており、このことを受けて、生活交通確保の視点、地域振興と地域産業の視点から、経営分離後の並行在来線のあり方を幅広く検討するため、新潟県は平成13年12月に沿線及び関係13市町村と並行在来線対策協議会を設置した。

そして、新潟県並行在来線対策協議会では、平成14年度「並行在来線の経営に関する概略調査」(中間報告)を行い、平成15年度も引き続き「並行在来線の経営に関する概略調査」を実施し、運行計画詳細調査、鉄道資産概略調査、長期収支分析調査を行っている。

(2) 在来線の駅別乗車人員の推移(平成9、13年度比較)

在来線の一日当たり駅別乗車人員の推移を5年間比較した。なお、平成9年度は北陸新幹線高崎・長野間が開業した年である。

数値を比較すると、黒井駅のみ増加しており、その他は全て減少している。全体の増減は、6.8%の減となっている。内訳は、信越本線の普通利用10.0%減、定期3.7%減、全体6.6%減。北陸本線の普通利用40%減、定期14.3%減、全体20.2%の減となっている。

表-1. 北陸本線市内所在駅一日当たり乗車人員数(人)

駅名	年度	普通	定期	合計	増減	増減率
有間川	平成9年度	7	53	60	▲ 5	-8.33%
	平成13年度	5	50	55		
谷浜	平成9年度	18	31	49	▲ 17	-34.69%
	平成13年度	10	22	32		
小計	平成9年度	25	84	109	▲ 22	-20.2%
	平成13年度	15	72	87		

【データ提供：西日本旅客鉄道株式会社金沢支社】

表-2. 信越本線市内所在駅一日当たり乗車人員数(人)

駅名	年度	普通	定期	総数	増減	増減率
黒 井	平成 9 年度	8	155	163		
	平成 13 年度	8	160	168	5	3.11%
直江津	平成 9 年度	2,009	1,174	3,183		
	平成 13 年度	1,736	1,154	2,891	▲ 292	-9.17%
春日山	平成 9 年度	153	268	421		
	平成 13 年度	139	219	358	▲ 63	-14.94%
高田	平成 9 年度	1,298	1,800	3,098		
	平成 13 年度	1,140	1,864	3,003	▲ 95	-3.07%
南高田	平成 9 年度	57	624	681		
	平成 13 年度	157	490	647	▲ 34	-4.98%
脇野田	平成 9 年度	74	107	181		
	平成 13 年度	60	86	145	▲ 35	-19.57%
小 計	平成 9 年度	3,599	4,128	7,727		
	平成 13 年度	3,240	3,973	7,212	▲ 515	-6.6%
合計	平成 9 年度	3,624	4,212	7,836		
	平成 13 年度	3,255	4,045	7,299	▲ 537	-6.8%

【データ提供：東日本旅客鉄道株式会社新潟支社】

(3) 貨物鉄道輸送状況

北陸本線は、日本海を縦貫する貨物の大幹線のため、貨物鉄道の本数が多いことが分かる。また、信越本線についても北陸本線よりも少ないものの定期的に貨物利用があることが分かる。

表 - 3 . 北陸線・信越線（米原～直江津～長野間）貨物列車 1 日当たり本数（上下計）

	北陸線（米原～直江津）			信越線（長野～直江津）		
	コンテナ	専 用	計	コンテナ	専 用	計
定 期	4 2	1 8	6 0	4	6	1 0
不定期	5	5	1 0	-	4	4
計	4 7	2 3	7 0	4	1 0	1 4

【資料：貨物時刻表（平成 14 年 3 月ダイヤ）】

2. 市民の意向（市民アンケート結果（概要））

（1）はじめに

【新幹線の認知度】

北陸新幹線のルートについて 65.8%の人が知っており、脇野田駅付近に上越駅ができることは、82.4%の人が知っている。また完成時期については、23.4%の人が知っていた。

【並行在来線の認知度】

27.4%の人が並行在来線という言葉聞いたことないし内容も知らない、並行在来線に対する認知度が低い。

【鉄道の役割】

「遠方へ出かけるときの移動手段（88.6%）」や「高齢者や車を持たない人のための移動手段（65.4%）」、「車がつかえないときなど車の代わりになる移動手段（60.0%）」が高い。また、「地域の発展に貢献（43.5%）」、「安全面で優れている（42.8%）」、「クリーン・省エネなど環境にやさしい（36.2%）」、「上越を訪れる人の移動手段（30.5%）」についても3割以上の人を選択している。

その他意見としては「時間に正確」や「通学」が多かった。

（2）鉄道の利用状況について

【交通機関分担率】

主な交通手段は、自家用車 66.4%、自転車 7.2%、バス 4.9%、電車 4.2%、タクシー 1.6%、徒歩 1.3%、バイク 1.1%である。

【電車の利用頻度】

年に数回が最も高く 54.3%。一方、利用しない人は 28.1%いる。

【電車の利用目的】

旅行・レジャーが最も高く 69.7%、通勤は 2.3%、通学は 1.8%、出張は 22.4%だった。

【移動方面別利用交通手段】

「新潟市及び新潟市周辺」で自家用車 44.4%、高速バス 26.5%、電車 13.8%。「富山県及び石川県など北陸方面」では自家用車 48.6%、電車 34.0%、高速バス 0.9%。「大阪など関西方面」では鉄道 70.3%、自家用車 9.2%、高速バス 1.7%。「長野方面」は自家用車 63.1%、鉄道 22.7%、高速バス 0.6%。「東京など首都圏方面」は鉄道 71.9%、自家用車 11.4%、高速バス 5.0%であり、大阪・東京方面など、遠方へは、鉄道利用率が高くなっている。

【自宅から駅・駅から目的地までの交通手段】

自宅から駅までの交通手段は、「タクシー・自家用車（45.2%）」が最も高く、車の滞留スペースの確保が必要である。また徒歩により駅に行く人が24.0%いることから今後も駅及び駅周辺のバリアフリー化など歩行者にやさしい駅及び駅周辺の環境を整備する必要がある。

また、駅から目的地までの交通手段は、「タクシー・自家用車（48.9%）」が最も高く、続いて「バス」を利用する人が14.0%おり、電車からバスへの乗換えの利便性向上が必要である。

（3）鉄道の活性化策等について

【利用促進策】

「運賃を安くする（47.4%）」と「電車の本数を増やし、運転間隔を短くする（43.2%）」を選んだ人が最も高く4割を超えている。また2割以上の人を選択しているものは、「電車と電車の乗り継ぎ時間を短くする（36.9%）」、「快速電車の運転などによりスピードアップを図る（35.6%）」、「例えば毎時0分、20分、40分など電車を分かりやすい時刻に発車させる（26.2%）」、「電車とバスの乗り継ぎ時間を短くする（21.5%）」であった。最も選んだ人が少なかったのは、「新しい駅を設置する（7.1%）」であった。

その他意見としては、「安価もしくは無料駐車場」や「利用促進策は必要ない」、「バリアフリー対策」が多かった。

【個別施策に対する市民の関心度】

それぞれ「興味があるので参加してみたい」を選んだ人の多い順に、「イベント列車（10.9%）」、「ノーマイカーデー（5.3%）」、「鉄道ファンクラブ（2.3%）」、「鉄道会社への出資（0.9%）」である。

【並行在来線対策】

「もっと鉄道を使いやすくして、利用者を増やす（55.1%）」が最も高く、次に「車のない人や高齢者の交通手段として必要であり、ある程度の税金を投入して存続を図る（54.9%）」、「地域の貴重な財産であり、ある程度の税金を投入して存続を図る（28.4%）」であり、利便性向上を図り、利用促進を図るとともに、その存続については過半数の人が存続の必要性を訴えている。

その他意見としては、「低運賃・高齢者向け運賃補助」や「新幹線建設中止」、「駅へのアクセス向上」、「バス・タクシー代替」などが多かった。

【鉄道とまちづくりの望ましい関係】

「駅周辺にバスターミナルや駐車場、駐輪場などを整備する（57.4%）」、「鉄道駅を中心にバスを運行し、鉄道とバスにより市内を移動できるようにする（54.7%）」、「駅周辺に日用品の買い物ができる商店や住宅を配置する（42.8%）」と駅にアクセスするためのバスターミナル、駐車場、駐輪場の設置を望む声が最も高く、続いて市内を公共交通機関である鉄道とバスにより移動できるようにすることを希望する人が多い。また、駅周辺に商店や住宅の配置を希望する人が多かった。

その他意見としては、「中心駅に駅ビル設置」や「駐車場」、「バリアフリー対策」が多かった。

【駅周辺に欲しい施設・建物】

「駅ビル・デパート・ショッピングセンター（276）」、「駐車場（151）」、「飲食店（125）」、「医療・福祉関係施設（70）」、「コンビニエンスストア（62）」、「ホテルなど宿泊施設（50）」、「図書館・美術館・博物館（43）」、「お土産屋・物産館（42）」、「学校（32）」の順に多かった。

【自由意見】

「ダイヤ（接続、乗換、本数、時刻）」に関するものが103件、「存続に向けた運動」に関するものが55件、「バリアフリー対策」に関するものが42件、「駅周辺の整備・活性化」に関するものが33件、「鉄道とバス・タクシーとの連携により駅へのアクセス向上」に関するものが31件、「並行在来線運営会社の経営努力」に関するものが30件、「ベンチの設置等駅施設」に関するものが28件の順に多い意見があった。